



市民スポーツボランティア SV2004 5周年特集号

2004年9月、一般市民で作るスポーツボランティア組織として「SV2004」は仙台に誕生しました。それから4年が過ぎ活動は5年目に入っています。今回のSVニュースはここまでの主要な活動を振り返る特集号です。

2004年 誕生

歩き始めた年.....

9月12日 発足

9月18日~23日 仙台カップサポート
SVとして初のボランティア活動

10月17日 ラグビーサポート



フリートーク基調講演は元サッカー日本代表の山田隆裕さんでした

11月14日 第5回フリートーク・フェスタ
テーマは「する・みるから支えあう楽しさへ」

12月19日 大忘年会



さまざまなネットワークが生まれました

05年2月5日 第1回東北サミットin山形



外は雪でも会場内は熱気がありました

05年2月20日 第6回フリートーク・フェスタ

テーマは「新しいプロスポーツと市民参加」、楽天野球団の島田社長
仙台スポーツリンクの中村GMがパネラーとして参加してくれました

05年3月10日・19日 楽天イーグルスボランティア説明会



宮城県ラグビー協会からSVに依頼されたボランティア運営はいい経験になりました

11月2日 仙台にプロ野球楽天イーグルス誕生決定



新しいボランティア組織に向けて

04年11月からは、05年に活動を開始するプロ野球の「東北楽天ゴールデンイーグルス」、プロバスケットボールの「仙台89ERS」というふたつのスポーツのボランティア組織の立ち上げに向けて、チームはもとよりそれぞれの支援組織や行政部局とも連携し、こまかな打合せを行い準備に参加しました。

ボランティア同士の交流企画

新潟・山形・宮城のスポーツボランティアが交流する「東北サミット」がスタートしたのは05年のこと、持ち回りで毎年開催され既に4回が終了しています。



2005年 激動

誕生を待っていたかのように様々なボランティア活動の依頼が持ち込まれました

4月1日 楽天イーグルスホーム開幕戦
プロ野球初のボランティア活動開始、
新しい歴史が始まりました



日本一きれいなスタジアムをめざしエコ活動

5月6日・8日 楽天スタジアム見学研修



突貫工事でスタジアムも開幕を迎えました

5月21日 泉ヶ岳アウトドア・フェスティバル・ボランティア
仙台市郊外の山を舞台にマウンテンバイク・山岳マラソンの
ボランティア活動、現在も続いています



6月19日 スポーツボランティア講座
テーマは「スポーツボランティアってどんなもの」

7月31日 第7回フリートーク・フェスタ
テーマは「ボランティア・リーダーにもとめられるもの」
基調講演は長野オリンピックのボランティア・コーディネーターとして活躍した丸田藤子さん



8月21日 仙台スタジアム祭サポート

8月28日 山形芋煮会
冬のサミットに続き、「山形・新潟・宮城」のボランティア
交流のイベントで今も続いています



山形風と宮城風の鍋対決で盛り上がります

9月7日 サッカー日本代表選サポート
宮城スタジアムで2002年以降
初の代表選、4万5千人で満員



最大規模のスポーツイベント、ベガルタ・イーグルス・グランディ、そしてSV
2004といくつもの組織が連携して大会を支えました



11月5日 仙台89ERS開幕戦
3つめのプロスポーツ、バスケットボールのボランティア活動もスタートしました

12月18日 第8回フリートーク・フェスタ
スポーツにおけるエコをテーマとして、楽天の島田社長の話しや
各地の活動を学びました



06年2月4日～5日 第2回東北サミットin新潟
第2回の会場は新潟のビックスワンでした

2006年 停滞

前年の活動が活発だった分だけ、やや停滞した一年となりました

06年3月 ボランティア・ハンドブックまとめ
2005年のボランティア講座から作成しました



5月7日 大学ラグビーボランティア



慶応大学と明治大学のラグビーのサポートを行いました

6月9日 ドイツ・ワールドカップ開催 ~ あれから4年

ワールドカップの集い、パブリックビューイングなど楽しみました

6月21日 スポーツ・エコレクチャー

スポーツのボランティアにとって、ごみの問題は共通のテーマ
「研修」「交流」とともに、「環境」はSVの大切な活動課題です

8月19日~24日 FIBA世界バスケットボール選手権サポート

バスケットボールのワールドカップ、アルゼンチンやフランスなどの強豪が仙台で戦いました



SVは得意のエコの活動で大会をサポートしました



9月24日 第9回フリートーク・フェスタ



テーマは「スポーツボランティアを楽しむために」、2部では「オシムの言葉」の木村元彦さんの講演もありました

2月9日 第3回東北サミットin仙台

山形・新潟に続き仙台で開催しました。会場は宮城スタジアム、翌日はクリネックススタジアムの見学会も開催しました。

2月18日 救命講習会

2007年 確実

背伸びせず、「確実に」を目標に活動した一年でした。

07年5月26日 泉ヶ岳アウトドア・フェスティバル

毎年恒例の参加イベントとなりました。

07年7月21日 プロ野球パ・リーグオールスター・サポート

仙台のスポーツで取り組んでいるエコ活動が全国に紹介され、NPBが2008年に「グリーン・ベースボールプロジェクト」を立ち上げるきっかけになりました。【エコを全国に】



初めてエコやボランティア活動を来場者に紹介するブースを設置しました

07年10月28日 恒例エコ・セミナー開催

分別回収だけにとどまらず、電力・水など環境に関連するさまざまな活動にトータルで取り組む必要性をアピールしました。



07年11月から 89ERSホームゲーム花企画

89ERSのホームゲームの勝利を祈って、ボラ有志がシーズンを通じて、受け付けやトイレに花を飾りました。



07年12月16日 ボランティア・セミナー

恒例の企画として「楽天イーグルス・総合型スポーツクラブ」とボランティアについて話し合いました。

07年12月29日 bjオールスターゲーム・ボランティア

新潟で開催されたプロバスケットbjリーグのオールスターゲームにボランティアとして4名で参加しました。当日はスーツ着用での活動でした。



08年2月10日 スポーツボランティア入門説明会

参加のきっかけにと、4つの団体が合同で活動紹介を行いました。



2008年 発信

どうしたら活動を知り理解してもらえるか、2008年はSVやボランティアの情報発信に取り組んでいます。

08年4月5日 スポーツボランティア・セミナー

第1部は「東京マラソンボランティア」の活動報告、第2部は「災害とボランティア」、そして第3部は「バスケットボールの基礎知識」について、参加者と一緒に考えました。



08年5月3日・4日 bjリーグ・プレーオフボランティア

東京の有明コロシアムで開催された仙台89ERSのプレーオフのボランティアに参加しました。

SVの情報発信

SVニュース（一般向け）

様々なスポーツボランティア活動の紹介やイベントの報告アンケート結果など全国の情報を記録し紹介しています。

SVだより（会員向け）

原則として前月の組織の活動についてまとめています。

このほか大きな出来事については別途報告書をまとめホームページなどを通じて情報発信を行っています。



08年5月14日 楽天イーグルス・ボランティア・ブース・スタート

来場者にボランティア自らが活動やエコの紹介を行うブースが提案により実現しました。

08年6月22日 スポーツボランティア・エコセミナー

08年7月25日～27日 日本女子ソフトボール北京五輪壮行試合

カナダ・オランダ・日本代表が戦う北京五輪の壮行試合のサポートをしました。



6月14日
岩手・宮城
内陸地震

8月8日
～ 24日
北京オリンピック
開催

08年7月27日 スポーツボランティア・入門説明会

通算二回目の企画として開催しました。

08年9月11日～15日 仙台カップ国際ユースサッカー大会サポート

ユアテックスタジアムを舞台に2003年から始まった大会も6年目

SVの情報発信

SVホームページ（一般向け）

さまざまな活動報告や日々更新しているコラム、仙台のスポーツ情報などを発信しています。

<http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

CANPANブログ（市民向け）

不定期でSVや関連団体のイベント情報を中心に発信しています。

<http://blog.canpan.info/sv2004/>



08年12月14日 スポーツ・フリートーク・フェスタ

本当にたくさんの方々に支えられて5年目を迎えた「SV2004」、これまでに感謝し、これからを一緒に作り上げていきたいと思えます。

< 地域密着のためのボランティア制度 >

宮城県仙台市、このまちとその周辺には現在千名近いスポーツボランティアが継続的に活動しています。本来であれば雪国であり、スポーツが特別に盛んというわけではなかった地域で、何故これほど多くの人がボランティア活動をしているのか？それは、宮城のスポーツに関連したボランティア活動の歴史にあると考えられます。

スポーツに関連したボランティア活動といえば、地域のスポーツ少年団や学校などで子供の両親や、先輩が子供たちにルールや技術を教えている姿が浮かびます。ほんの十数年前までは国体など一過性のスポーツイベントをのぞけば、決して数も多くはなく、関わっているのはスポーツの経験者が中心でした。その光景が一変したのは1993年にサッカーのプロリーグであるJリーグが誕生したことが大きく影響しています。ヨーロッパや南米などのリーグを参考とした日本のプロサッカーリーグでは、ホームタウン制度というものを採用し、地元とのつながり、特に地域の人々との関係を重視しました。野球でいう「ファン」が、サッカーでは「サポーター」と呼ばれ、チーム・クラブを支える人という呼称で表現されるのは、その象徴ともいえます。やがて、各クラブは地域からボランティアを募りゲームの運営に協力してもらうシステムを導入します。

< 危機感をバネに活動する >

仙台では1994年にJリーグをめざし「ブランメル仙台」が誕生、1998年にボランティア制度がスタートしました。一時のブームが過ぎ、Jの有力クラブの中にも高騰した人件費などに耐え切れず破綻の噂が飛び交った時期であり、実際に1999年横浜フリューゲルスが、天皇杯で優勝を勝ち取ったにも関わらず横浜マリノスに吸収されるという出来事もあり、累積赤字に悩む仙台を応援する人々の間にも強い危機感が生まれていました。この年J2が始まり、チーム名もベガルタ仙台に変わったことを受けて、地域の財産ともいべきチームの存続を願い、多くの人がボランティア活動に参加していったのです。

< ボランティア経験者の増加 >

一方2001年には宮城国体が県内の各市町村で、そして2002年にはサッカーの世界カップが宮城スタジアムでとスポーツのビックイベントが連続して開催されることとなりました。県外から多くのお客様を迎えるために、国体では約2万人、ワールドカップでは約2千人のボランティアが活動し、スポーツイベントを支えるということの楽しさに目覚めた人も多くいたのです。宮城ではサッカーのボランティアの延長線でワールドカップの盛り上げのために発足した「キックラブ」という市民組織もあり、仙台市内や宮城スタジアムの周辺でワールドカップの認知アップと、機運の醸成(つまり盛り上げ)のための企画を、頻繁に開催しました。この時の企画の立案や実現までの手順、当日の運営とその後のまとめなどは、その後のボランティア活動のいい経験となりました。しかし、国体やワールドカップはあくまで一過性のスポーツイベント、華やかなときはあっという間に過ぎ去ります。

< スポーツ施設の有効活用 >

そして翌2003年、その余韻がまだ残っていた時期に会場となった宮城スタジアムを含むグランディ21に、継続的な活動をする「グランディ・21ボランティア」が誕生しました。現在では施設型のボランティアとして、スポーツイベントの運営をサポートするほか、施設の見学案内や施設周辺の美化をめざし、花壇の手入れなども行っており特に宮城スタジアムで開催されるイベントには無くてはならないものになっています。

< 幅広いスポーツをサポートしたい >

このころ仙台市では、スポーツイベントの開催とそこへのボランティアの参加に力をいれはじめており、ワールドカップを記念して開催されるようになった「仙台カップ国際ユースサッカー大会」や「泉ヶ岳アウトドアフェスティバル」などで公募により参加したボランティアが活動していました。それは、スポーツを「する」「みる」だけでなく、「ささえる」ということの大切さを行政が重視したことや、一方参加する側からは活動する「楽しさ」が広く理解されてきたことが大きかったと思われる。そうした変化を実感し、その結果としてプロサッカーやワールドカップ、国体などのボランティア仲間の有志と一緒に、市民で作る幅広いスポーツをサポートする目的で2004年の9月に立ち上げたのがSV2004でした。(以下、SV)

< スポーツイベントの増加 >

今にして思えば偶然とはいえこのタイミングは非常に幸運だったのです。SV発足を待っていたかのようにまずは宮城県ラグビー協会から主催するトップリーグのイベントに対しサポートの依頼がありました。このイベントは事前の打ち合わせから当日の運営、更に事後の反省会までひとつの流れとして経験するという意味で、大変貴重な経験の場となりありがたいイベントでした。そして、2004年11月、仙台にプロ野球界で50年ぶりとなる「東北楽天ゴールデンイーグルス」が誕生しました。新球団はその後おどろくべきスピードで翌2005年の開幕に向け準備をすすめるのですが、地域密着をキーワードとした取り組みの中でプロ野球界初となるボランティア制度がスタートすることになりました。時を同じくしてプロバスケットボールのチーム(bjリーグの仙台89ERS)が仙台をホームとして発足することとなり、ここでもボランティアの組織化に向けての検討が始まりました。あれから時間が経過し、現在3つのプロスポーツそれぞれの運営するボランティア組織と前述のグランディ・21ボランティア、そしてSVと継続して活動するボランティア組織は宮城県内では合計5つとなっています。

市民型のスポーツボランティア組織をめざして誕生した「SV2004」、2005年2月に多彩なメンバーに参加をお願いして開催した「フリートーク・フェスタ」でいろいろなことを学びました。その報告を改めて掲載いたします。

1. イントロダクトリートーク 竹鼻 純 氏(宮城テレビキャスター)

「宮城のスポーツと市民参加」

ミヤギテレビ入社からニュース担当であり、あわせてスポーツ中継の実況などもしてきました。今回のお話をいただき改めて数えてみると13のスポーツ競技の実況を担当していました。その中にはサッカー、バスケットも中継してきており、そのスポーツアナウンサーとしての経験をベースとして話しをしたいと思います。

宮城県はそもそもスポーツアナウンサーをやりたいと思ったものの、スポーツで全国に誇れるものはほとんどなく国体の成績では昭和49年に宮城県は43位。55年は45位という状態で県議会で宮城のスポーツはどうなっているのかと質問がでたほどでした。とにかく、この頃の成績は酷かったです。

当時考えたのは、ではどうしたらいいのだろう、ということでした。良く比較対照される広島には全国レベルで活躍するスポーツがたくさんありましたが、宮城県ではなかったのです。

そこで「日本ではサッカーが必ずよくなる、だから宮城県でサッカーの大会をやったらどうか」と会社に企画を提案し中継をしました。また、野球では1私学の招待試合を宮城球場で開催し、PL学園(桑田、清原)vs東北高校(佐々木)の実況中継などをやりました。更に東北電力のサッカー部を何とか日本リーグに入れようとも思いました。その後、宮城県の成績は飛躍的に伸びたわけですが、その最初のきっかけは、考えてみると平成2年(1990年)15年前の宮城インターハイ(全国高校総体)ではなかったかと思います。それまで全国規模の大会は昭和28年の国体以来ほとんどなかったのでぜひ宮城県に招致しようと思ったのです。(結果的に開催が決まったあと)ミヤギテレビと仙台放送がインターハイに向けていろいろやったのですが、毎日のローカルニュースでスポーツコーナーをやるようになったのもこのころで、最初宮城テレビがやり仙台放送が続いて、東北放送も始まりました。当時は、高校スポーツがメインであり当時高校生を取り上げた「輝け青春」という番組は今も続いています。(スポーツ中継は)視聴率も高くメディア側も徐々に関わるようになりました。その中では特に仙台放送とミヤギテレビがエスカレートしていたと思います。

宮城インターハイが開かれたとき、想像以上にお客さんが来まして他の県ではそうではなかったのだどの種目の関係者にもびっくりされました。ミヤギテレビと仙台放送は、毎日30分のインターハイの生番組をやり、サッカーでは東北高校が勝ち進み準決勝で負けたのですが決勝では利府の県サッカー場が超満員になりました。ミヤギテレビではバスケットとサッカーの試合の中継をやりました。結果としては宮城県民にスポーツに目を向けさせた機会になったと思います。築館はフィールドホッケーの会場で、未だにこここの小中学校にホッケー部があるというおまけまであります。国体の成績は平成2年のインターハイの3年前に天皇杯20位、22,23位ときて、宮城国体で優勝しました。その後も5,10,8位にいて、3年やってまだ8位にいる県というのは他にはないことから考えると非常にインターハイ、国体をうまく使ったと思います。

その後ブランメル仙台が設立され現在のベガルタ仙台が誕生、国体、障害者スポーツ、W杯へとつながっています。特にW杯は日本代表まできましたイタリアがキャンプをはりました。その中でブランメルは設立ですが、本当に期待がすごく宮城県サッカー協会が中心的にやった署名では33万人分が集まりました。スタート当初はブランメルは苦難が続きましたが結果としてそれがチームをつぶさないという意識につながりボランティアにつながったと思います。元々宮城県はサッカーの中継の視聴率は高いほうで、ベガルタは急に人気が出たと思われていますが、当時からJFLで3000人も観客が入るというチームはなくそれだけサッカーファンが多かったのです。しかし宮城県ではトップレベルのスポーツを見る機会はなかったからこそ、県民・市民が見たいと思ったのでしょう。更にその思いがボランティアにつながり、そこに仙台スタジアムという箱ができて、多くの観客が集まるようになったと思います。

ある意味では県サッカー協会の活動もボランティアですが15年前はボランティアという感覚ではなく好きだからやっている、という感覚でした。今は日本サッカー協会というプロの人たちがあれやれこれやれとうるさく、プロの団体を頂点に抱く都道府県団体は大変です。

スポーツボランティアは、Jリーグで育てられ、幅広くは阪神淡路大震災により参加への意識が大きく変わってきました。一方で宮城県固有の背景もあります。もともと東北人は排他的だといわれてきましたがそうではないのです。ちょっとシャイなところがあるので、1回あってもややあとはできないけれども、それが決して排他的ということではないと思います。仙台は支店都市といわれています。そのため選挙で読めない市で4年たつと1/4入れ替わるといわれているのです。結果的に比較的シャイな仙台の人々を外から来た人が引っ張っていく形になりましたが、われわれの感覚からいうと、ここまで急激に宮城県民がサッカーに対して熱狂的になるとはおもいませんでした。その大きな要因は県外から宮城県に移り住んできた人の存在が大きく、そういう外から来た人と宮城県民が融合した結果だろうと思うのです。

ボランティアの意味としては貧乏なところを助けるという部分を取り上げられますが、本当はスポーツの場合、「する、ささ

える、みる」ではないかと思ひます。「みる人」と「する人」の架け橋となるのが「ボランティア(ささえる)」ではないでしょうか。プロサッカーについてはボランティアの人の役割が大きく、これから相乗効果をより本格的に獲得していくと感じていますし、支える裾野が広ければ頂点も高くなるはずだと思ひます。今回のプロ野球の誕生に対しサッカー関係者に悲観論がありますが、いろんなスポーツの裾野が広がるのがサッカー、野球、バスケのそれぞれを面白くさせるだろうと思ひます。

2. パネルディスカッション「新しいプロスポーツと市民参加」

(パネラーの肩書きは当時)

パネラー 大畑 民夫氏 (宮城県教育委員会教育次長) / 稲葉 信義氏 (仙台市市民局長)

島田 亨氏 (楽天野球団代表取締役社長) / 中村 彰久氏 (仙台 89ers ゼネラルマネージャー)

竹鼻 純 氏(宮城テレビキャスター) / コーディネーター 阿部 清人 氏 (FMいずみアナウンサー)

<阿部さん>

する楽しみをずっと持ってこられた大畑さんからスポーツに期待する部分と、支えることに対するご意見を聞きたいと思ひます。

<大畑さん>

全体では文化の話ですね、美術館、図書館など多様な文化があつて、更にプロスポーツがあることが大都市の条件だと思ひます。野球の場合、従来の日本地図では札幌から東京にとんでしまつて、これからは仙台も入るでしょう。また、全体では一兆三千億円くらいのプロスポーツによる経済波及効果があるといわれています。ベガルタ仙台もそうだったように楽天などの波及効果は徐々にでてくると思ひます。

メンタル的な部分では、直にプロのプレイを見られるというのは元氣や勇氣をもらえ子どもたちに憧れを生みます。2001年の国体は9位で維持していますが、子どもたちの生きる力=体力の低下が気になっています。13歳男子の1500mの持久走ですが、57年では全国が6'10"、宮城県の平均が6'19"でした、これが平成14年では全国平均が6'29"、宮城県平均6'53"になってきました。14年間に34秒も遅くなってきており走れなくなってきている子が多いのです。つまり全体的な生きる力に問題が出てきていると思ひます。見る、する、支えるスポーツのうち、見て感動して喜ぶことでスポーツを好きになるだけでなく体を動かしましょう、という段階になってきており仕掛けが必要だと思ひます。(スポーツ関わる人々は)子どもたちにスポーツによる体力強化のきっかけ作りをやってもらいたいのです。今回3つのスポーツがあるということで取組む意味が一層大きくなりました。

市民参加という点ではシアトルマリナーズのあるシアトルが有名で、人口50万人でプロスポーツが4つもありますが、その4つのチームの運営会社が地元に着着をもって、いろいろな形で市民に返しています。(今後、仙台のプロスポーツそれぞれに)ボランティアが参加できる仕掛けが必要で、その結果地域に元氣活力が出ると思ひます。

<阿部さん>

見ることが生きる力作りにつながるだろうというお話でした。稲葉さんはどうでしょうか。

<稲葉さん>

スポーツは都市の文化度を表すといわれています。仙台もベガルタ仙台、楽天、89ersができて3つのプロスポーツ。地域と密着しているプロスポーツが3つあるのは東京・大阪と、仙台だけです。そもそも89ersというのは1889年に仙台が誕生したこと、1989年には仙台市が政令指定都市になったことから付けられチームの設立自体が地域を意識されていますので、野球やサッカーに比べるとリーグ自体が地域性が強いといえます。

ボランティアについては一人一人が自ら関わることが必要です。関わったからといってすぐにチームが強くなるわけはありませんが、チームのありようは十分に変わります。逆にいえばプロチームを抱える地域の住民の特権と思つて良く3つもプロチームがあるというのは大きな特権です。チームを自分でできる範囲で支えてほしい、と思ひます。たとえばスタジアムにいくときに自分ひとりでいかずに、奥さんを連れていったりする。そこではまってくれば、隣の奥さんと一緒にいくかもしれない。もしかしたら奥さんをつれていくよりも子どもをつれていったほうがいいのかも知れません。子供は見たら遊びたいと思つてでしょうし、遊ぶことが体位向上につながりますから。

<阿部さん>

楽天は地域密着と打ち出していますが、市民にどのように関わるかおたずねします。

<島田さん>

東北発全国ブランドになりたい。つまり地域のかたがたにものすごく愛されるチームをつくるけれども、同時に全国的に認知度が高く、好感度を持たれる、という球団ブランドをつくりたいと思ひます。経済規模がどうしても大きくなりますから、地域からのサポートと全国的なサポートの両方が必要であり、大事なテーマです。

地域でどうやって愛されていくか、というのは重要なテーマですがユニフォームに東北という文字を入れなかったのも、お叱りももらいました。しかし全国的な企業がサポートしづらいという理由からあえてやりました。東北と文字を入れることで地

域に愛されるということではなく、実際には地域にどう溶け込んでいくかが最も重要と思います。地域に関わるということは、実感していただくまでに時間がかかります。学校訪問など地道な取り組みも必要でしょう。現在われわれから地域に溶け込むのも人数が限られていますし、過密なスケジュールで時間的にも限られています。35名くらいの職員しかいない状況ではいかに市民の方々にボランティアとして参加いただくかが重要で、このチームは俺が手伝っているチームだ、私が入っているチームだ、というのが大切です。これまでプロ野球ではなかったわけですが、是非市民の方から野球団のいるんなことに入り込みJリーグのチームがやっている以上に関わって欲しいと思います。これはコスト削減ということではなくて、裾野を広げていくこと地域から愛される方法と思っています。

<阿部さん>

89ersの中村さんはどうですか

<中村さん>

稲葉さんのお話のように89ersの89という数字が市民とともに歩みたいと思っている証です。その中で一番の市民参加は実際にチケットを買ってきていただくことです。現在アリーナでのプロスポーツはほとんどない状況ですからアリーナエンターテインメントを提供したいと思います。また、われわれも待っていれば参加いただけるとは思っていません。われわれが地域に足を運ばせていただくことから89ersの試合やイベントに足を運んでいただきたいのです。(試合で盛り上げる一助を担ってもらったり行政などのイベントに89ersが参加する)方法については11月に向けて練習しているところで、ハーフタイムショーなどもやりたいと思っています。チアリーダーの子どもたちや小学校のジャズバンドにきてもらったり。出向くことについては、中学校や高校の体育館で練習する中で市民と触れ合うこともできふれあう機会が増えるだろうと思っています。

<竹鼻さん>

さきほど話しましたが「見る」と「する」の間にあるのが、「ささえる」ということでしょう。ゲームやイベントで行うボランティア活動は見えています、競技そのものにもっと関わるというアプローチもある、と思っています。サッカーでみると、子どもたちとつきあいの中で早くいい選手をみつけて育てよう、ということだけに力を入れるあまり、子ども1学年あたり、宮城県でいえば2000人くらいの子供がやっている中で1人のプロ選手ではなくて、1999人のサッカーを続けさせることも大切だと思いますし野球もバスケットボールも、続けさせることも必要なのです。

プロになれなかったら嫌だ、という環境ではダメで小学生の可能性を閉ざすことをやってはいけません。サッカーはずばらしい、野球もいい、バスケットボールもいい。日常的にスポーツのよさを伝えるのも、ボランティアの役割としてあると思います。イベントを成功させるだけではなく、スポーツのよさを伝える方法があるのではないのでしょうか。実際には幼稚園児にサッカーを教えるキッズプログラムとかがあります。またプロスポーツとアマチュアが自由に交流するフランクな関係が必要なのですが、野球団体はばらばらです。野球の横縦をつなげていければ、いいのではないのでしょうか。

<阿部さん>

ボランティアの役割について話を進めていきたいと思っています。

<大畑さん>

巨大施設である宮城スタジアムをどうするか、というテーマがありました。浅野知事も心配しているが、どうするか。(宮城野陸上競技場の場合は天から楽に解決策をもらいましたが)ワールドカップのときは2000人のボランティアと一緒にやりました。貴重な宝物をどうするかということで国体、障害者スポーツ、W杯のボランティアリーダーと一緒に、G21ボランティアを立ち上げました。条例を完全に変わることができたと、敷居が高い部分もあったのですがスポーツ以外にもSMAPなどが宮城にくるときに情報発信することができています。グランディ・21にボランティアセンターを作りました。今年、川瀬さんにあったときに、昨年8月に前年の高校サッカー選手権でベスト8に入った高校を中心に、16チーム選抜して、宮城スタジアムカップをやったことを評価いただきました。今年は国際Aマッチを秋にやりますので、ぜひモチベーションをもってほしいと思います。

<阿部さん>

稲葉さん、仙台スポネットについてどうでしょうか。

<稲葉さん>

スポーツボランティアの連携をしていただきたい、という目的のスポネット構想があります。この構想自身はずいぶん前からありますが、ゲームを盛り上げてほしい、とか、ボランティアに任せる部分に対し行政からこういう風にしてほしい、という組織ではよくないと思っています。モンティディオ山形のボランティアがオーケストラと連携したいと話もありました。仙台フィル、定禅寺ジャズフェスティバル、よさこいなど、いろんな組織の横のつながりがあって、場面、場面で、みなさんからあがってくるような都市の資産ができあがらないか、と思います。生活の豊かさにつながる、ボランティア組織であってほしいのですが、そのための準備会を年度内に一回立ち上げ手探りで作業しないといけないと思っています。

<阿部さん>

市民からの提案型の組織にしたいということですね。

<竹鼻さん>

宮城県は市民参加という意味では全国的な流れの中で、先進的なものがあると思います。ところが、ボランティアとスタッフの関係が問題です。活動している中でボランティア側も主体性がでてきます。ゴミ減量作戦は大きな成果でしたがこれをやりたい、あれをやりたい、という急に嫌がるという状況があります。楽天も 89ers もいろんな仕事を経験した人が入っているので大丈夫だと思うが。一方ボランティアはボランティアだからと勝手なことを言っていると分裂します。ボランティアの中でコーディネートしてフロントといい関係をする必要があります。ただし、フロントといい関係とは、なあなあ関係でなく、きちんと話し合える関係です。

東北楽天ゴールデンイーグルスのいい取り組みが始まります。もしこのプロジェクトが成功すれば、宮城県民の一体感につながるでしょう。ヨーロッパの都市対抗を見ると、Jリーグの地域の一体感はまだまだ不十分です。第一にボランティアが宮城県を飛び出して東北各県の人々と一緒になるか。山形や岩手のボランティアとのかかわりが気になるところです。九州は一体感がある地域でホークスには九州みんなで応援しています。東北というのはそこまでの一体感がないように思います。その一体感をつくるきっかけになるかもしれない、とちょっと思っているところです。平成の大合併が進むと道州制が進むこととなりますが、東北州という意味があるか、と考えると、東北は今のままではダメで、東北全体の一体感が必要でありそこに市民参加が必要です。

<阿部さん>

楽天にとってボランティアとは、

<島田さん>

われわれ側からこれを期待する、これをやってほしい、という立場にないと思っています。ボランティアの目的は野球団を助けるためではなくて、自分たちが住んでいる地域を育てるための方法論でしょう。ひとつの手段としてうまく野球チームを使っていただければいいと思っています。ボランティアの組織同士の問題もあるでしょう、進行するにしたがってばらばらとなる可能性もあり、ちゃんとコミュニケーションがとれて一体感のある動きをしてほしいと思っています。結果としてスタジアムで反社会的な組織ができにくいとかそういう環境ができればいいな。青少年の健全化に役立っていけばいいな、と思います。鹿島アントラーズがJリーグになって、暴走族がいなくなったという有名な話がありますが、それを聞いたときに、プロチームと地域とが一体感をもち結果的にいいチームを作ればいい、と思いました。

ボランティア組織は進めば進むほど、チームのフロントと意見・考え方が乖離する可能性があります。民間一企業としてちゃんと経営健全化を考えてなくてはいけない中でいろんなところから、こういうことしろ、ああいうことしろ、となると野球団としては1:100になり手が回らなくなりちゃんとコミュニケーションがとれなくなる可能性があります。ミスコミュニケーションになるとだめで会社としてはチームを強くするため、健全経営をめざす。これだけで結構手一杯です。他の球団の半分の人数でやっていること、0からやっているの、3倍の仕事を半分の人数でやっているわけです。その中でボランティアの方には、自分たちの地域を良くするため、キャパシティを考えてやっていただきたいと思います。

<中村さん>

スポーツボランティアに限らず、われわれが足を運ぶというのは、われわれのできるボランティア活動です。われわれの活動に参加していただくということについては、興行としてやるので、根幹に関わる部分にはボランティアには無理でしょうが、サービスの向上については是非お知恵をいただきたいと思います。クリーンな体育館。環境作りや会場への誘導とか、基本的な考えはお客様へのサービスになります。





SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)

準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

THANKS …

< ここまでSV2004の活動にご協力いただいた皆様、ありがとうございました : 敬称略 / 順不同 >

[2004年度] … 毎年ご協力いただいている場合は初年度の欄に記載しておりますのでご了承ください。

仙台市スポーツ振興事業団 宮城県ラグビー協会 仙台市市民活動サポートセンター
楽天野球団 山田 隆裕 宮城県サッカー協会 高橋 勝志 仙台市文化スポーツ部
仙台スポーツリンク 宮城・環境とくらしネットワーク(MELON)

[2005年度]

せんだい・みやぎNPOセンター 楽天イーグルス・マイチーム協議会 大泉 浩一
東北のプロ野球を考える市民の会 竹鼻 純 阿部 清人 盛 朋子
グランディ・21ボランティア 金子 法泰 丸田 藤子 田中 育郎
イエローブースターズ

[2006年度]

木村 元彦 武田 均 櫻井 寛 宮城県バスケットボール協会
仙台市環境局 青葉消防署

[2007年度]

bjリーグ 登米市バスケットボール協会 宮城野消防署

[2008年度]

日本ソフトボール協会 楽天イーグルスボランティアの皆様 89ERSボランティアの皆様
広島市スポーツ協会 坂井 法子 竹内 宏一 梶原 由美
乗松 保臣 岩瀬 裕子 鈴木 達也 浅見 圭一 大沼 義彦
長津 詩織 うつくしまスポーツルーターズ 宮明 透 亀田 武志
スポーツボランティア・アンケートにご協力いただいた全国のボランティアの皆様 庄子 克彦
吉田 英樹 和智 彰 笹川スポーツ財団 スペシャルオリンピックス日本・宮城

フルスイング(文庫 / 大和書房 / 百瀬しのぶ)

単純である、つい本屋でみていて帯にかかれた「1500万人が泣いた! NHKドラマ」というコメントにひかれて購入してしまった。本の名前は「フルスイング」。スポーツのボランティアを続けているとついスポーツ系の新書や文庫が気になって仕方がない。ともかく、ドラマの原作をノベライズ化したもので、目次の裏ページにはこうある。「この作品は、プロ野球で三十年間、打撃コーチ一筋に生きた高嶋導宏さんの、その後をモデルにしたフィクションです。」

自身、プロ野球選手としても活躍し引退後は落合・イチロー・小久保・田口壮・サブローなど延べ30人もタイトルホルダーを育てたという高嶋さんを、不覚にも私は知らなかった。小説はその彼がコーチをやめ福岡の私立高校に教育実習生として赴くところから始まる。50代後半での転進、それから僅か1年間の教師生活、ガンによって急逝するまでの濃密な生き方、決して器用ではないが正面から人と向き合い、相手にとって何が良いかを一緒に考え悩む姿は、時として痛々しい。けれど、高嶋(文中では高林)さんが亡くなった後、残された奥さんに教え子から届けられた数十枚の写真の中の高嶋さんは、必ず笑顔だったという。

果たしてこれがスポーツの、しかもボランティアに関係する小説なのかはわからない。しかし、人と向き合うこと、その姿勢にとって大事なものは、人間の生き方に共通の何かをもっているとするれば、ぜひ、様々な人に読んでみてほしいと思う。

編集後記

このSVニュースが発行される12月中旬の段階で、SV2004は字際には4年と3ヶ月を迎えている。その間の仙台・宮城のスポーツ環境の変化はおどろくばかりで、ふたつの新しいプロスポーツチームが誕生し、様々な国際レベルのスポーツイベントも毎年のように開催されるようになっていきます。そしてどの会場にも黙々とあるいは笑顔でごみを分別したり、さまざまな運営のサポートをするボランティアの姿がみられるようになりました。スポーツと市民の関係でいえば「ささえる」ことが日常的な光景になりつつあります。その中で、その変化の場に私たちも立ち会ったり、時としてより密接に関わることができたことは本当に幸せなことでした。次の5年はもっとたくさんの人と一緒に活動を楽しみたいものです。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>
スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。 情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp